

【 日 出 町 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校）

調査結果の分析

小学校：国語

※赤数字は全国の平均正答率を下回るもの

小学校 6年生 国語	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率						評価の観点別平均正答率			問題形式		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと						
全体													
全国	67.7	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7	69.8	66.0		69.9	59.7	64.6
県	69.0	65.7	87.6	76.9	60.6	70.4	73.8	71.2	68.0		70.8	62.1	69.6
日出町	69.0	65.9	85.9	82.1	57.4	72.4	73.6	71.9	67.3		70.8	61.3	69.7

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を1.3ポイント上回っている。
- 領域別平均正答率・観点別平均正答率で、領域別平均正答率「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」と「思考力・判断力・表現力等」の「話すこと・聞くこと」が、全国の正答率を下回っていた。情報と情報の関係について理解し、必要な情報を選び、条件に沿って表現する問題で課題が見られる。
- 「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題で、正答率が57.7%（全国62.5%）と、全国と比較して低かった。
- 「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題で、正答率が低かった。

小学校：算数

※赤数字は全国の平均正答率を下回るもの

小学校 6年生 算数	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率					評価の観点別平均正答率			問題形式		
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全体												
全国	63.4	66.0	66.3		51.7	61.8	72.8	51.4		75.3	62.0	51.0
県	63.0	66.0	66.8		48.3	61.9	72.5	50.7		75.6	60.8	51.0
日出町	62.0	65.4	63.9		47.2	60.0	73.4	46.5		75.6	58.8	49.0

- 教科全体の平均正答率は、全国平均と同レベルの数値である。
- 領域別正答率では、全ての領域で全国平均を下回った。
- 観点別では「知識・技能」は平均値を上回ったが、「思考・判断・表現」の分野で課題がみられる。
- 知識・技能の観点では、全国平均を上回っていた。
- 数と計算、データの活用の領域では、全国平均をやや下回っていた。図形、変化と関係では、2ポイント以上下回っていた。（球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係をつまみ、立方体の体積の求め方を式に表す問題や、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題では、課題が見られる。）
- 小学校5年生の県の学力調査の時と比べ、正答率は、大分県との差が縮まってきている。

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校）

調査結果の分析

中学校：国語

※赤数字は全国平均の正答率を下回るもの

中学校 3年生 国語	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率						評価の観点別平均正答率			問題形式		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと						
全国	58.1	59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9	62.0	55.4		61.0	61.8	45.5
県	58.0	58.8	57.8	80.3	58.3	63.4	47.5	62.1	54.6		60.5	61.9	44.6
日出町	60.0	61.7	59.5	85.4	61.1	65.7	49.8	64.9	57.1		63.4	62.7	48.1

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を1.9ポイント上回っている。
- 領域別平均正答率では、知識及び技能の「情報の扱い方に
関する事項」が全国平均を下回っている。
- 「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題では、正答率が65.5%（全国68.5%）、「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題では、正答率が78.8%（全国81.4%）と、全国と比較してやや低い。
- 「行書の特徴を理解しているかどうかをみる」問題では、正答率85.4%（全国75.6%）で、全国平均より特に高くなっている。
- 正答率が50%未満の生徒の割合は、22.0%（全国26.5%）で、全国と比較して低い。

中学校：数学

※赤数字は全国の平均正答率を下回るもの

中学校 3年生 数学	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率					評価の観点別平均正答率			問題形式		
		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
全国	52.5	51.1	40.3	60.7	55.5	63.1	29.3		58.5	67.0	29.3	
県	50.0	49.4	36.5	59.5	52.8	61.0	27.0		57.3	64.0	27.0	
日出町	58.0	61.8	44.1	65.6	57.7	67.7	37.9		61.6	72.9	37.9	

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を5.5ポイント上回っている。
- 領域別正答率では、全ての領域で全国平均を上回った。
- 数と式、図形、関数、データの活用の全ての領域で、全国平均を上回った。
- 数学的な表現を用いて説明する問題においては、無解答の生徒が20%以上いた。全国や県の無解答率と比較すると、10%程度低い傾向にあり、解答をしようとしている傾向にはある。
- 正答率が50%未満の生徒の割合は、35.0%（全国43.5%）で、全国と比較して低い。

具体的な改善方法

□ 各教科の改善策

【国語】

- 指導事項を明確にした授業を行う。また「前学年までの漢字の読み書き」（教科書）を大切に扱ったり、主語・述語・修飾語等を定期的に振り返ったりする等、既習内容を振り返る場を意図的に設定する。
- 漢字のおもしろさ（成り立ち・部首含めて）や文法の意義等の指導を行うとともに、学習した言葉の力が生かせる場の設定をする。
- 文学的な文章や説明的な文章の特徴を押さえた指導を行う。また、複数の情報から、必要な情報を選び、条件に沿って表現する場を設定する。
- 話したり書いたりしている人が伝えたいことは何なのかを捉えながら、聞いたり読んだりさせる。
- 相手を意識し、立場や根拠を明確にして話したり書いたりする活動を大切にしていく。

【算数・数学】

- 各学年での基本的な学習内容の定着を図る。
- 基本的な問題を繰り返し練習し、問題を解く時間も意識させる。
- 数の合成分解（10が10個で100・4500は10が450個集まった数）について、小学校低学年から意識して取り組ませる。
- 自分の体や身近なものや単位を結びつけて考えさせ、量感を養う。
- 単位の変換や百分率・小数・分数・歩合のそれぞれの表し方や互いに変換することの習熟を図る。
- 情報を取捨選択する問題で、何を使って答えないといけないかを読み取らせる。
- 事実、理由、方法の説明などを意識して、思考・判断・表現をさせる場面を設定する。
- 児童生徒の困りが、問われていることを理解していないのか、理解しているけど書き方がわからないのかを見取って、適切な指導を行っていく。

□ 学校全体で取り組む授業改善

- 各学校の「授業改善の5点セット」における検証指標をもとに検証を行い、成果と課題を明らかにしながらPDCAサイクルを機能させる。
- 学習の見通しを持たせ、学習に対する興味・関心・意欲を高める「めあて」、学びの成果を実感し、学習活動を自ら振り返り意味付ける効果的な「振り返り」、主体的な学びを生み出すとともに、「わかった」「できた」を実感させるような、子どもにとって追究する価値のある「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」の設定を確実に挙る。
- 児童生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、様々な人との対話・協働により、異なる考え方を組み合わせたり、よりよい考えを生み出したりする等、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な授業を工夫する。
- 【言語能力】教科を問わず指導過程の中で、教科書を含む各種資料を適切に読み取れる工夫を行う。また、根拠や理由を明確にしながる自分の考えをまとめ、表現するといった協働的な学びの場を設け、話す・聞く、書く力を育成する。
- 【言語能力】自分の考えを広げたり、深めたりするために「目的」「状況」「場面」を意識した交流の場を設定する。また、思考ツールや「言語活動育成ハンドブック」を活用し、各教科等における思考力・判断力・表現力を育成する。
- 全国学力・学習状況調査の結果の分析を確実に挙る、「授業アイデア例」等を積極的に活用する。

□ 確かな見取りと個に応じた指導の充実

- つけたい力を明確にし、「具体的な評価規準」に基づく確かな見取りと「努力を要する状況」の児童生徒や特別な配慮を必要とする児童生徒への具体的な手立てを講じる。必要に応じて個別指導や補充学習を行う。

□ **町標準学力調査を活用する**

- 12月末、小学校4年生～中学校2年生全員を対象に町標準学力調査（小学校は、国語・算数・理科、中学校は、国語・社会・数学・理科・英語）を実施し、結果を各学校の授業改善に生かす。
- 調査結果をもとに、各学校で1年間の指導の検証を行うとともに、年度末に向けての指導方針を明らかにし、次年度につなげる。

□ **家庭、地域との連携**

- 規則正しい生活習慣づくりのため、「10（11）—7—1運動」「テレビやゲームは1日2時間以内」の推進を図る。
- 学校運営協議会等を通じて、学校の教育目標や児童生徒の課題とその解決について理解・協力を要請する。

【 日 出 町 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（児童生徒質問）

1 調査結果の概要

児童質問

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

○教科の愛好度

国語 68.8%（全国比 +6.8%） 算数 54.6%（全国比 -6.4%）

理科 89.6%（全国比 +6.0%） 英語 81.4%（全国比 +12.1%）

○「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」の問いに、88.3%（全国83.7%）が肯定的に答えている。

○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができるか」の問いに、84.4%（全国80.8%）が肯定的に答えている。

●「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」の問いに、肯定的に答えている児童は60.6%で、全国平均に比べ、3.0ポイント低い。

●「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに、57.1%で、全国平均より10.5ポイント低い。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の問いに、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えている児童は41.1%で、全国平均よりも18.4ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

○「朝食を毎日食べていますか」に対して、84.4%（全国83.4%）が「毎日食べている」と答えている。

●「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに肯定的に答えた児童は80.1%で、全国平均に比べ5.5ポイント低い。

●「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに、肯定的に答えている児童は84.4%で、全国平均に比べ、5.5ポイント低い。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の問いに、肯定的に答えている児童は72.8%で、全国平均に比べ、3.0ポイント低い。

生徒質問

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

○教科の愛好度

国語 69.0%（全国比 +4.7%） 数学 58.8%（全国比 +1.6%）

理科 72.5%（全国比 +4.2%）

○「学校の授業時間以外に普段（月から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「2時間以上する」と答えた生徒は55.8%で、全国平均より24.1ポイント高い。

○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「3時間以上する」と答えた生徒は42.9%で、全国平均より27.4ポイント高い。

○「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の問いに83.6%（全国80.3%）が肯定的に答えている。

●「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに、肯定的に答えている生徒は58.9%で、全国平均よりも5.9ポイント低い。

- 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の問いに、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えている生徒は18.5%で、全国平均よりも45.9ポイント低い。
- 《生活習慣・自尊感情等に関すること》
- 「朝食を毎日食べていますか。」に対し、88.1%の生徒が「食べている」と答え、全国平均とに比べ、9.0ポイント高い。
 - 「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに、肯定的に答えた生徒は、73.9%で、全国平均より7.6ポイント高い。
 - 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、肯定的に答えた生徒は、79.2%で、全国平均に比べ、4.6ポイント低い。
 - 「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに肯定的に答えた生徒は、76.2%で、全国より7.1ポイント低い。

2 日出町の児童生徒質問紙の調査結果をふまえて

《学習習慣・授業等に関すること》

- ・「課題解決に向け自分で考え、自分から取り組む」「自分の考えをまとめる・うまく伝えるよう工夫する」「話し合う活動を通じて、考えを深めたり新たな考えに気づいたりする」「学習した内容を見直す・生かす」など、主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られたことから、問題解決的な展開の工夫を充実させる必要がある。
- 一方、小・中学校ともに、「授業で自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文書、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに対する肯定的な回答の割合は、全国平均よりも低い。授業者が、身に付けさせたい力を明確にした上で、対話の目的や話し合いの必然性等、授業のねらいと指導の意図を明確にした対話的な学習を意識するとともに、授業の中で考えたことを発表する機会を多く取り入れる必要がある。また、自分の考えをまとめ、分かりやすく伝えるために、ICT機器を効果的に活用した伝え合いや表現の指導を充実させる必要がある。
- ・個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだと考えている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られた。小・中学校ともに、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」、また、小学校では「友だちや周りの人の考えを大切に活動する」、中学校では「自分に合った教え方、教材、学習時間などになっている」と考えている児童生徒の方が正答率も高い傾向がみられたことから、生徒指導の3機能を意識し、具体的な評価規準に基づく確かな見取りを行い、一人一人の学習状況に応じた指導を行うことが大切である。
- ・小学校では教科の愛好度、中学校では教科の有用性が高い方が、正答率も高い傾向がみられ、また、「算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と肯定的に答えた児童生徒は、国語・算数（数学）の正答率が高かったことから、児童生徒にとって授業が「わかる」「できる」「楽しい」と感じ、学習したことが生活に役立つことを実感できるような授業展開を大切にしていくことが重要である。
- ・家庭での学習時間は、小・中ともに全国平均と比べて高く、家庭学習の習慣化ができていると考えられる。今後も、授業で学んだ内容と家庭学習とのつながりを意識し、指導と評価を充実させていく必要がある。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- ・朝食の摂取率は、小・中ともに全国平均よりも高いが、小学校では、「日出町アクションプランの達成指標85%」を下回っており、今後も基本的な生活習慣の確立のために「10（11）-7-1運動」の推進をすすめていく。また、「平日のゲーム時間・動画視聴」の長さや「朝食摂取率」「就寝時刻」の値に関連性が見られたことから、上記運動の推進を進めていくことが重要である。※午後10時（中学生は11時）までに寝て、午前7時までに起き、1日1回目の食事（朝ご飯）をしっかりと食べようという日出町での運動。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対し、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均と比べて低かった。学校の教育活動全体の中で、支持的風土ある学級づくりを行い、よりよい人間関係や授業規律の構築をめざした取組を充実させる必要がある。また、生徒指導の3機能を意識した授業の工夫を進め、児童生徒一人一人の学習状況を把握しながら、全員が有用感・成就感を実感できる授業の実現を目指していくことが重要である。

【 日 出 町 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」に対し、全ての学校が肯定的な回答をしている。各教科等の特質に応じ、言語活動の充実について、学校全体として取組を進めることができている。
- 「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか」に対しては、すべての学校で肯定的な回答となっており、教育課程の活用ができていると言える。
- 「児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ICT機器をどの程度使用させているか」「児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問について、肯定的に答えた学校は県平均・全国平均より少ない。ICT機器の活用について、児童の使用方法に課題がみられる。
- 「前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」の質問について、県・全国に比べると肯定率が低い。

中学校：学校質問

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「前年度までに、授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」について、両校とも「よく行った」と肯定的な回答となっている。生徒それぞれのよさを生かしながら、異なる視点から考えたり、話し合ったりできるような学習課題や活動の工夫の取組を進めることができている。
- 小学校同様、「生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ICT機器をどの程度使用させているか」「生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問について、肯定的回答が県平均・全国平均と比べ少ない。
- 「前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」について肯定的に答えた学校は、県平均・全国平均より少ない。

2 日出町の学校質問調査の結果をふまえて

- ・各教科のワーキンググループ会議で、各種学力調査に関する分析と対策を行うとともに、「町内全体で取り組みやすく、効果的」な授業改善の方法等を考え、学力向上推進委員会で提案する。学力向上推進委員会で、各校の学力向上に係る取組状況の交流や町全体の抱える課題解決の方策等の協議を行い、町内全体で取組を進めていく。
- ・昨年度より、校種を超えた校内研究会授業や公開授業への参加など、小中連携の取組の充実をすすめてきたが、研究や研修等の合同実施、教育課程の接続等についての課題が今年度も見られた。小学校の授業実践や中学校の学習規律の共有を行い、子どもたちの学びを持続させ、9年間を見通した学力の定着を図るための取組を今後も進めていく。
- ・ICT機器の活用については、一人一台端末の児童生徒の使用方法について課題がみられる。実践交流や研修の機会を設け、効果的活用・日常的使用について推進していく。
- ・各校の学力向上会議や、日出町学力向上推進委員会等で、今回、質問紙調査で挙げた課題について共通理解を図り、小・中学校の取組に関する意見交流を行い、授業改善等の取組を連携して進める。